

お茶の放射性セシウムの実態に関する調査結果について

1 調査の趣旨

生葉（新芽）・荒茶・飲用茶の各段階における放射性セシウムの関係及び茶樹の汚染メカニズムを考察するため、茶葉及び土壌を採取し分析。

2 調査結果

(1) 生葉、荒茶、飲料茶における放射性セシウム濃度

- ① 生葉から荒茶に加工される過程で重量は約1/5に変化。放射性セシウム濃度は、水分の減少に応じて高くなっており、加工過程でセシウム自体はほとんど失われない。
- ② 荒茶から熱水で抽出する段階で、飲用部分に抽出される放射性セシウムは、5～6割程度。

(2) 茶樹の汚染メカニズム

- ① 古葉に含まれる放射性セシウムは、生葉（新芽）とほぼ同程度（乾物重量比ベース）。
- ② 土壌中の放射性セシウム濃度は、畝間で概ね260ベクレル/kg以下、株元で概ね40ベクレル/kg以下と低く、土壌からの吸収は、あまり考えられない。
- ③ 調査茶園における茶の新芽は4月10日前後であり、大量の放射性物質が放出された時点では、茶の新芽は出ていない。
- ④ 文献によれば、セシウムは、植物の葉面から吸収され、植物体内を移動。また、お茶は、セシウムと類似するカリウムをよく吸収。
- ⑤ 以上のことから、今回、生葉（新芽）で検出された放射性セシウムは、土壌中から吸収されたものではなく、古葉に付着したものが葉面から吸収され、新芽に移動したものと推定。

関東地方南部で生産されたお茶の放射性セシウム濃度について

(ベクレル/kg)

採取地	A	B	C
古葉	1,390	1,090	700
生葉	710	670	340
荒茶	3,200	3,100	2,300
飲用茶	54	61	46
土壌	(畝間) 191 (株元) 41	(畝間) 264 (株元) 18	(畝間) 136 (株元) 13
標高	110m	35m	110m

※ 採取日 5月14日、荒茶加工 5月15日

※ 検査機関 (財)日本食品分析センター